

ナルニア国物語

魔術師のおい

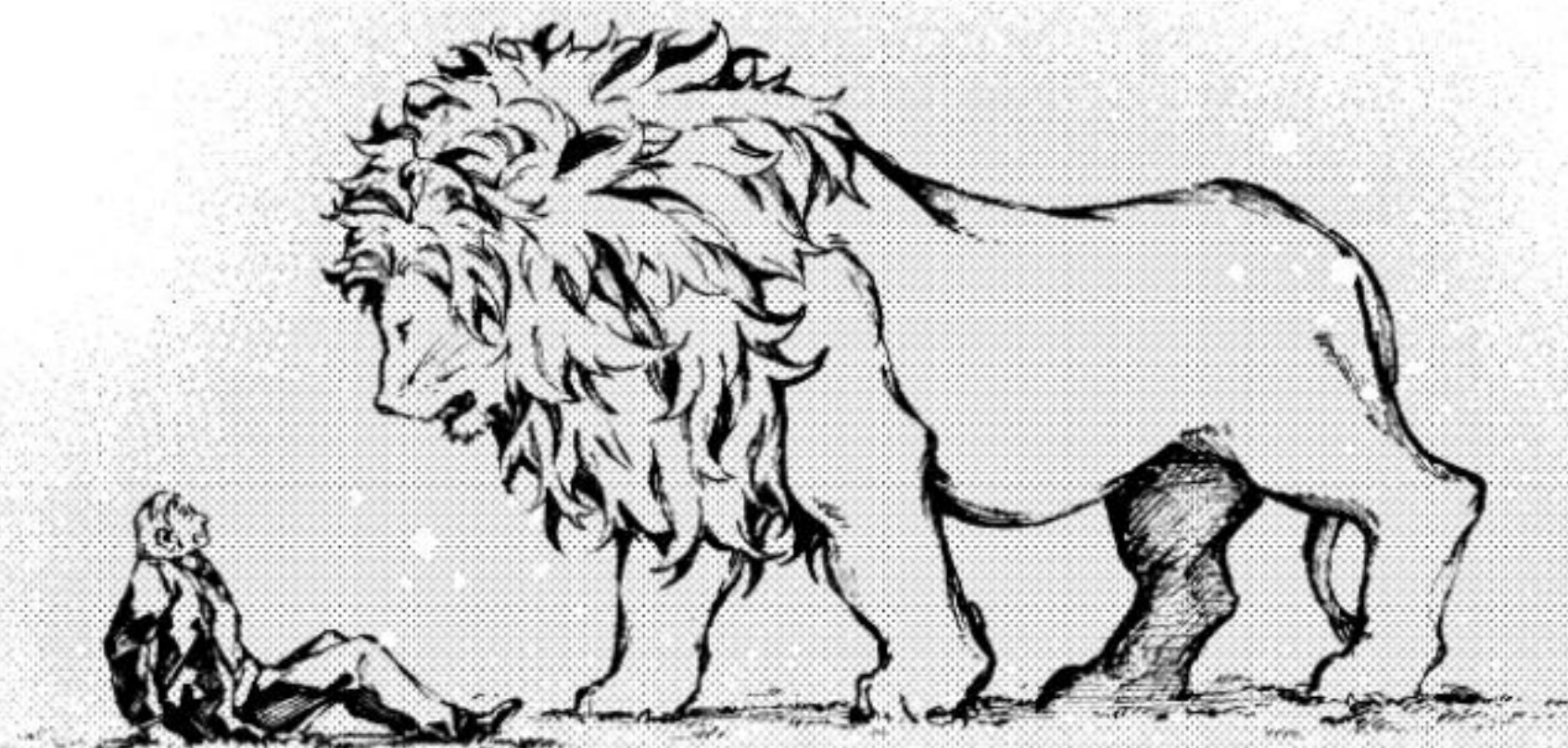
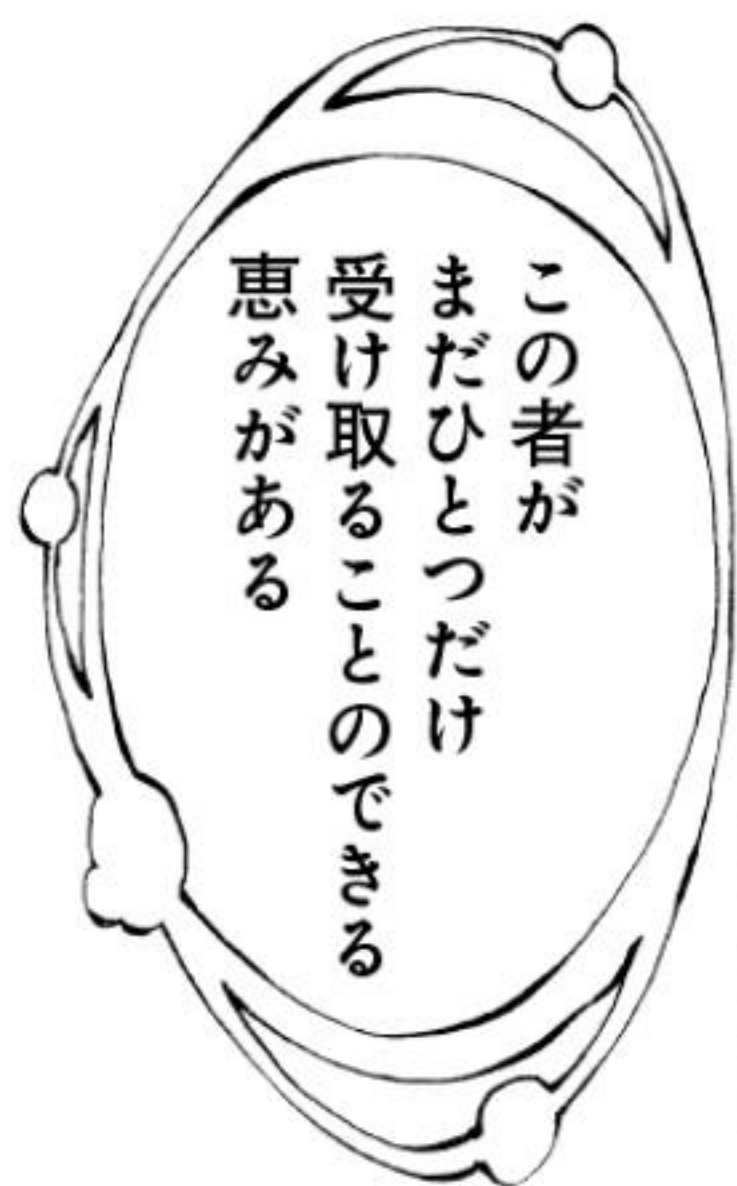
28

C・S・ルイス

土屋京子・訳

玉樹庵・画

(光文社古典新訳文庫刊)

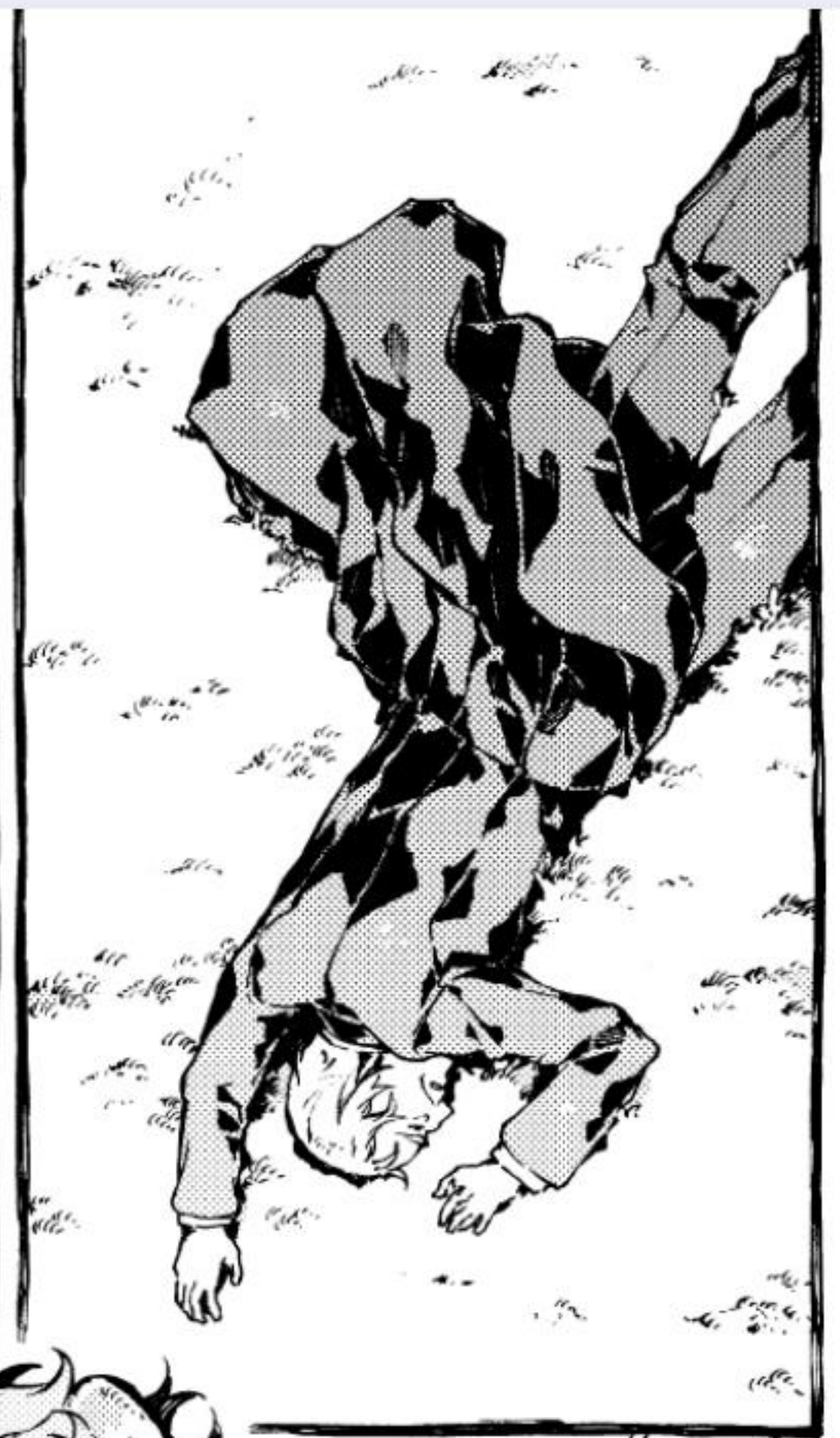






よいしょ

この者を
脇へ運んで
寝かして
おきなさい



さて

ドワーフ
たちよ！

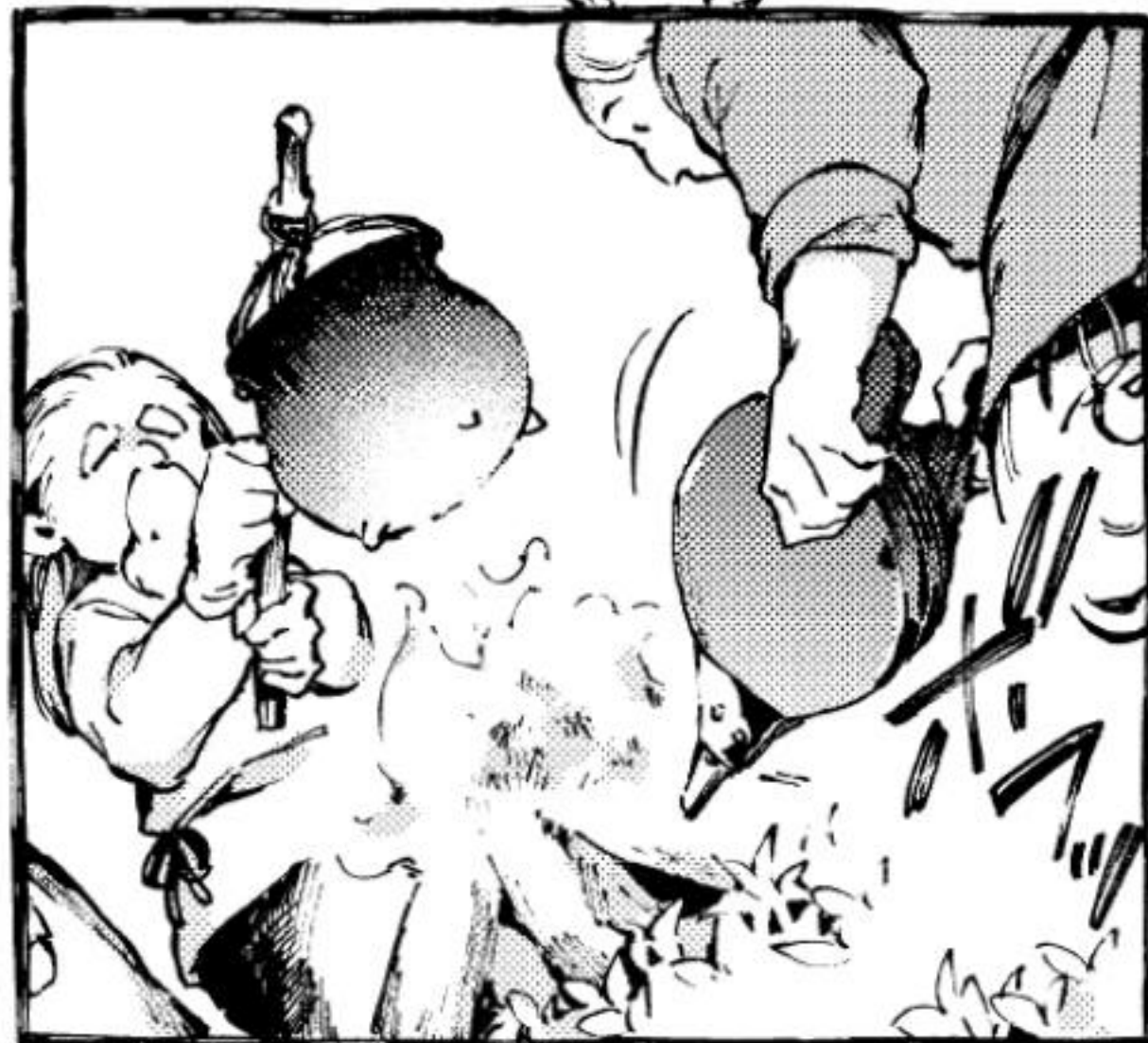
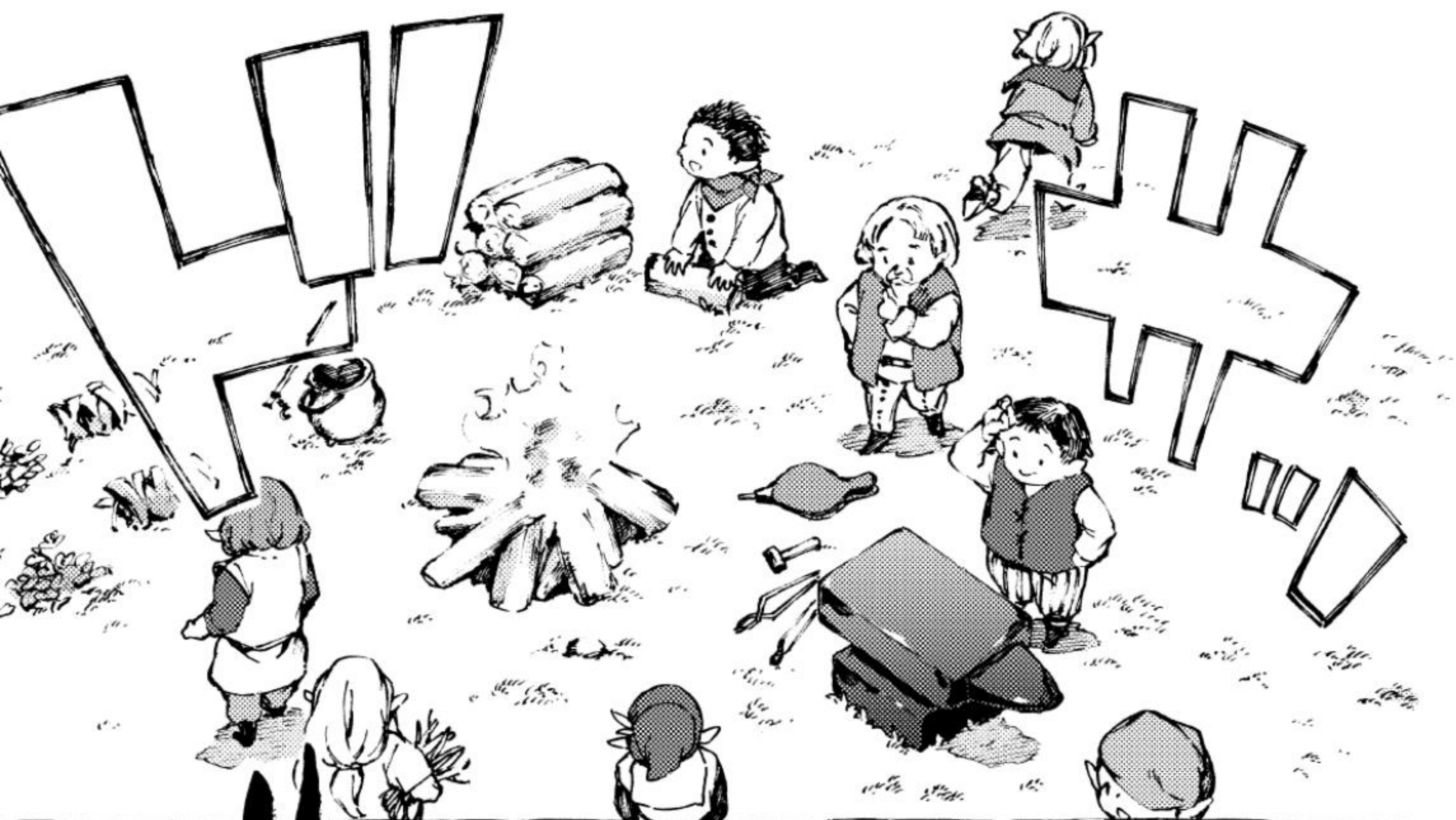


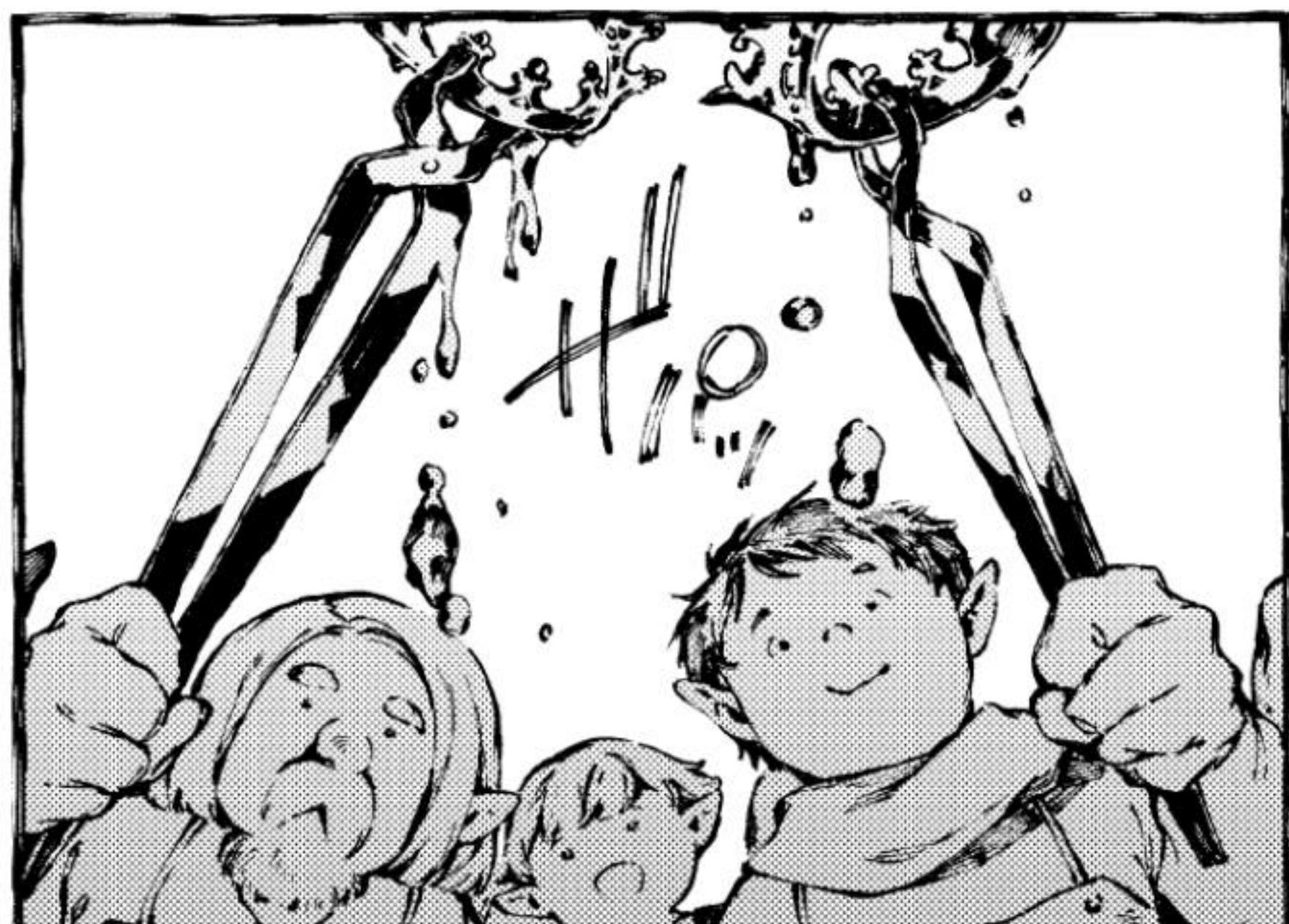
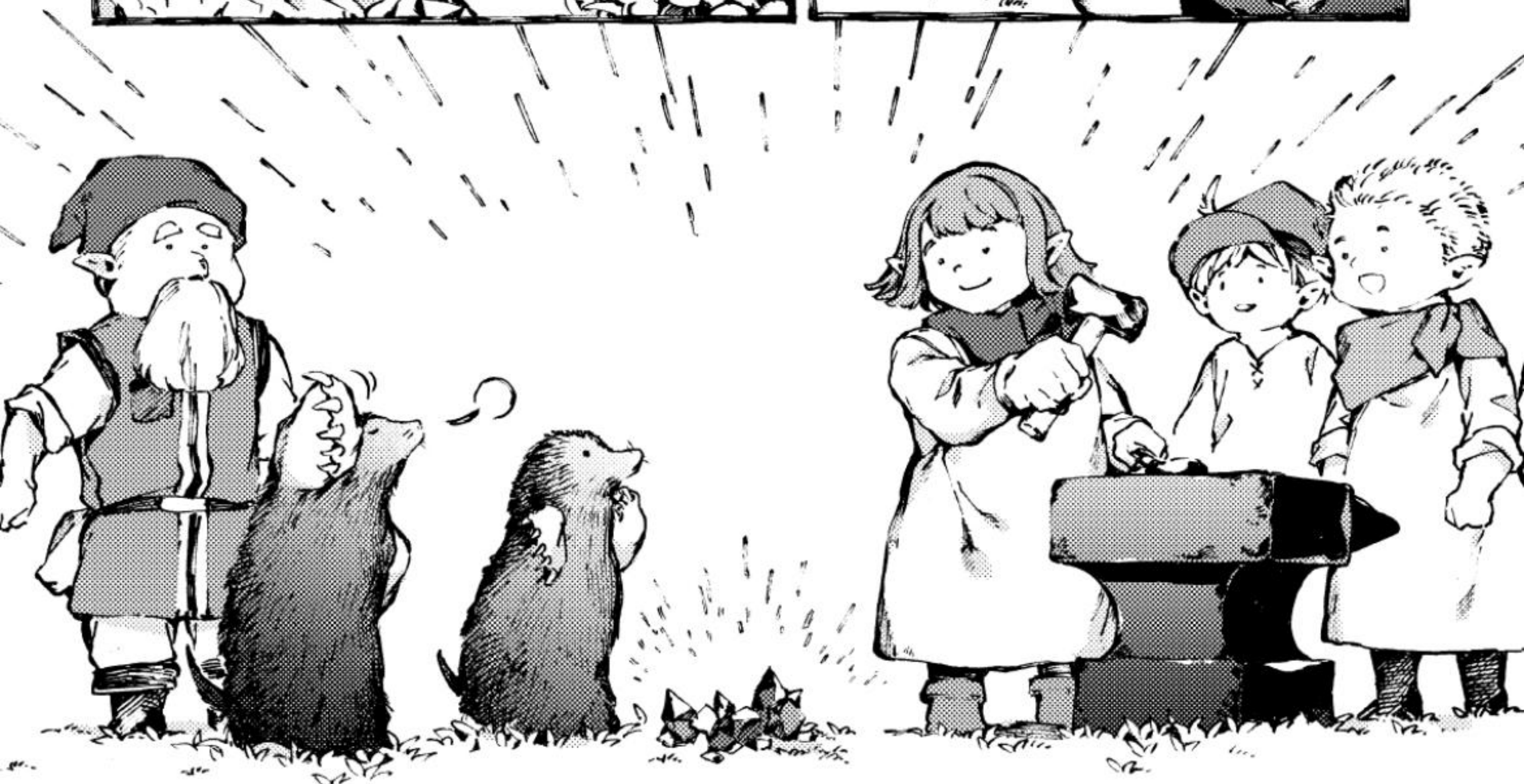
あなたがたの
鍛冶^{かじ}の技を
発揮する
ときがきた

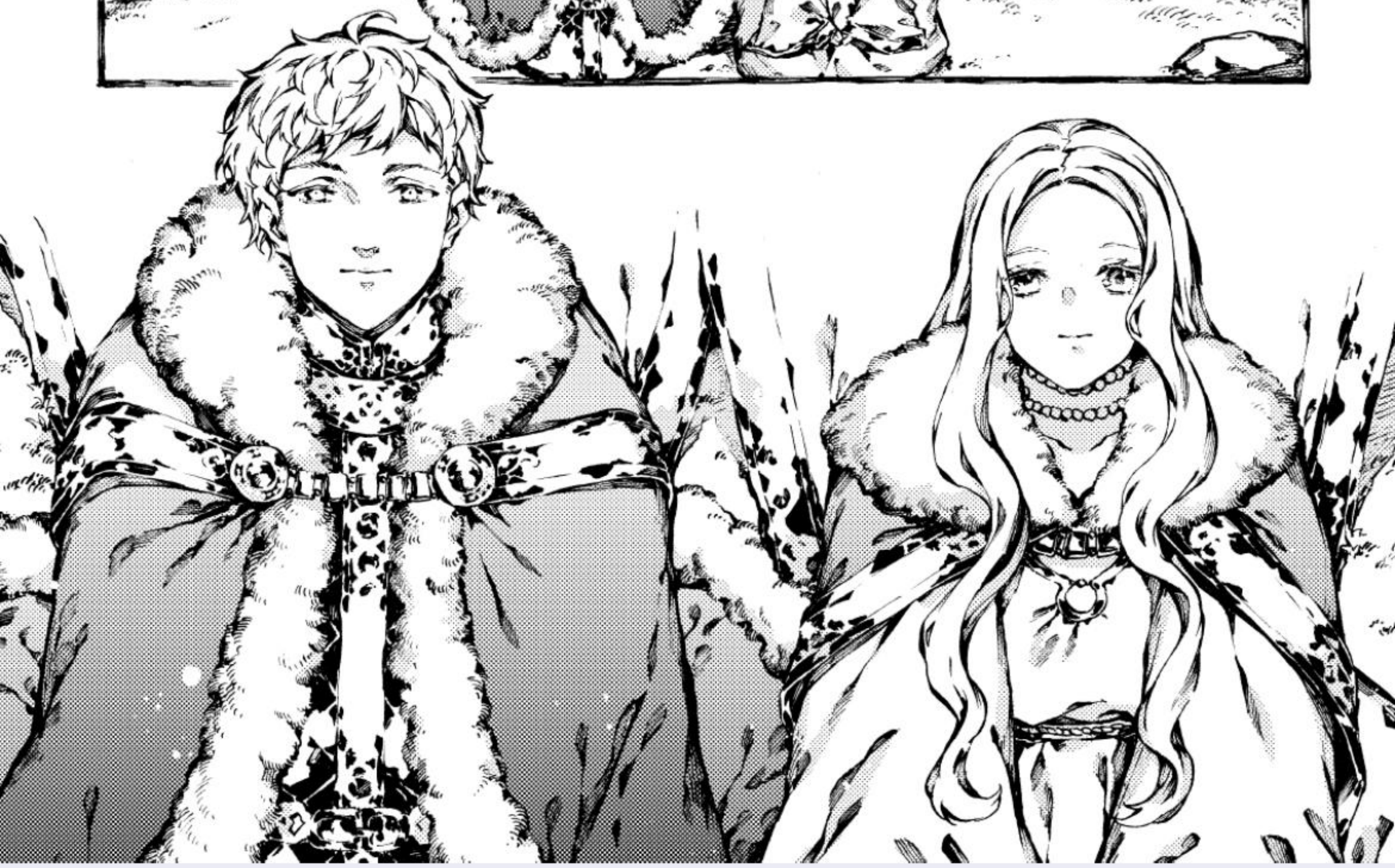
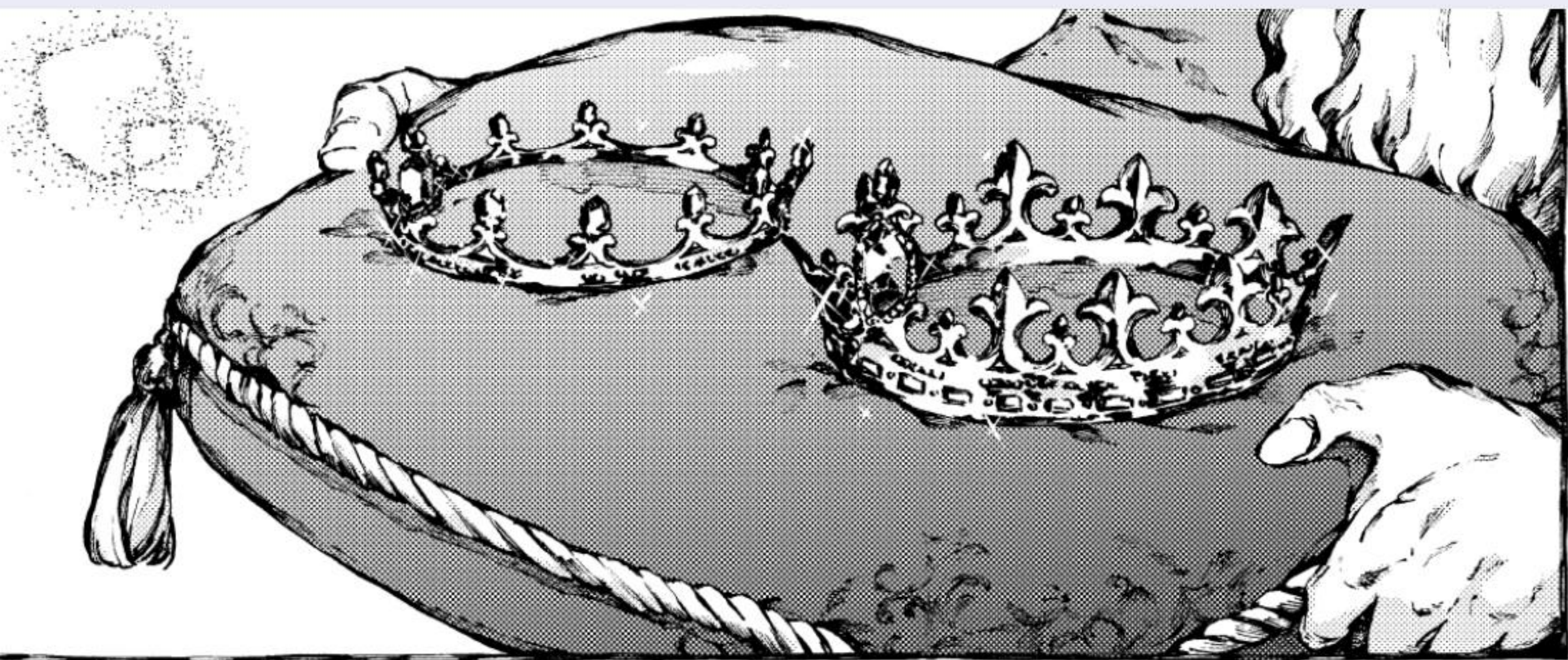


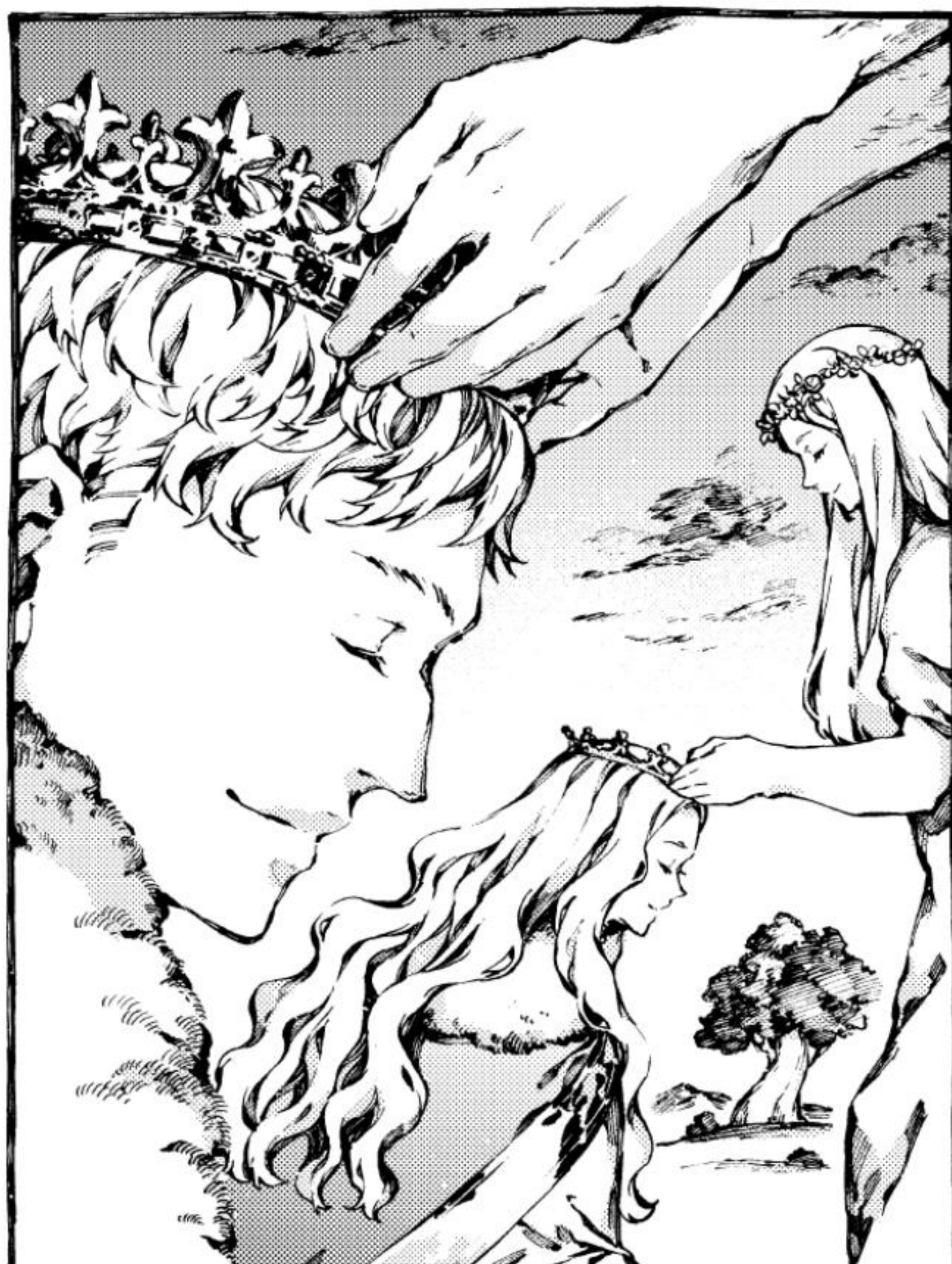
王と女王のために
二つの王冠を
作ってみせてほしい















正義を
重んじ

慈悲深く

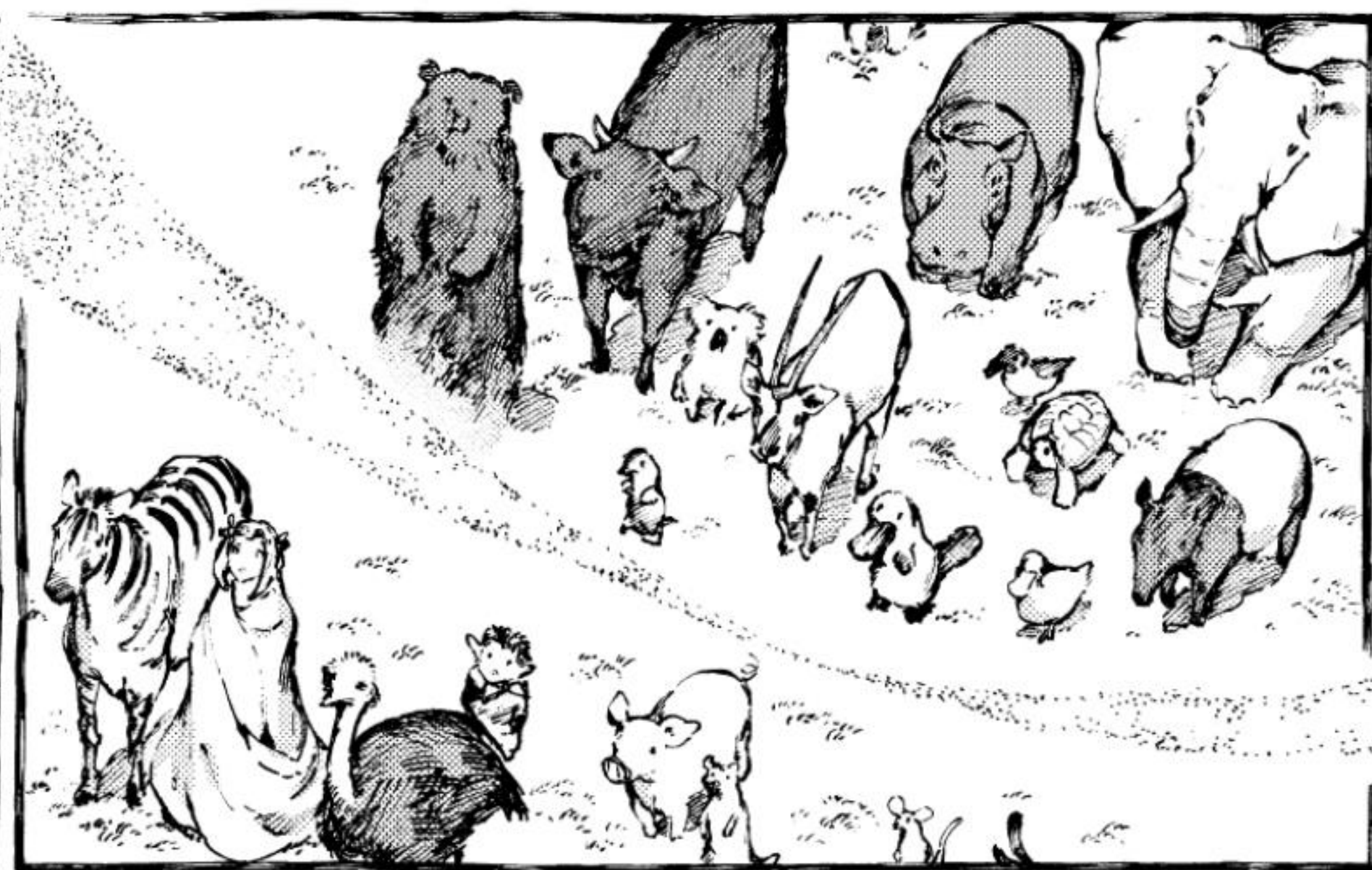
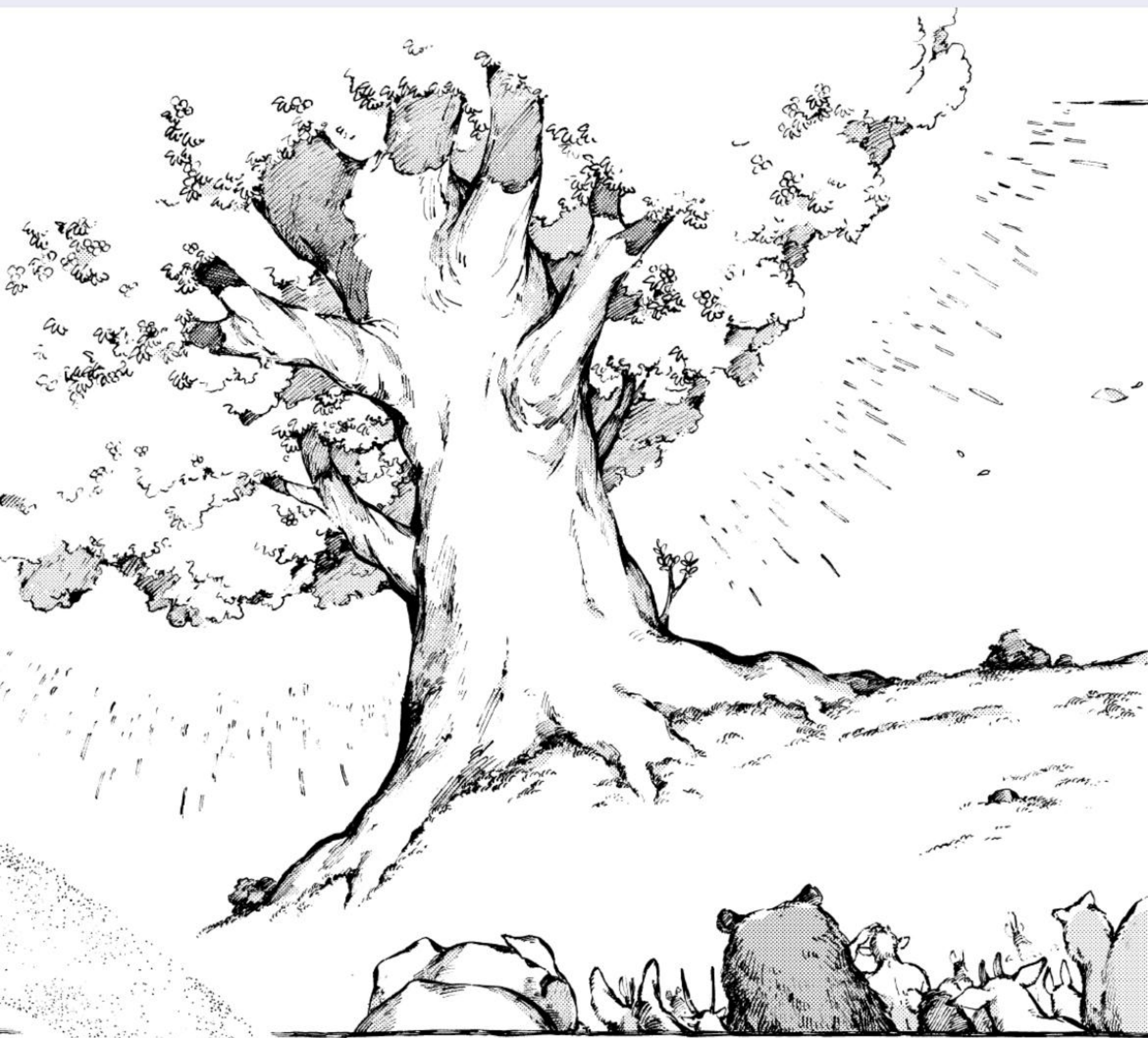
勇敢で
あれ

あなたがたに

祝福を与える











この木は
あなたがたを守る
盾だからである

わたしが
あなたがたに
話した魔女は

この世界の
はるか北方へ
逃げのびた

魔女は
そこで
生きつづけ

暗黒の魔術を
用いて
力を増すであろう





言うのを
忘れたのですが

魔女はもう
あのリンゴを一個
食べてしまったのです

あの木のもとに
なったのと
同じリンゴです

それで……

あの……

だから
わたしたち

何か
まちがっているに
ちがいないと
思ったんです

アスラン

魔女が
あのリンゴの香りを
いやがるはず
ないんじゃないか

……って

なぜ
そのように
思うのか

イヴの
娘よ？

だって

魔女はリンゴを
食べたからです

わが子よ

だから
こそ

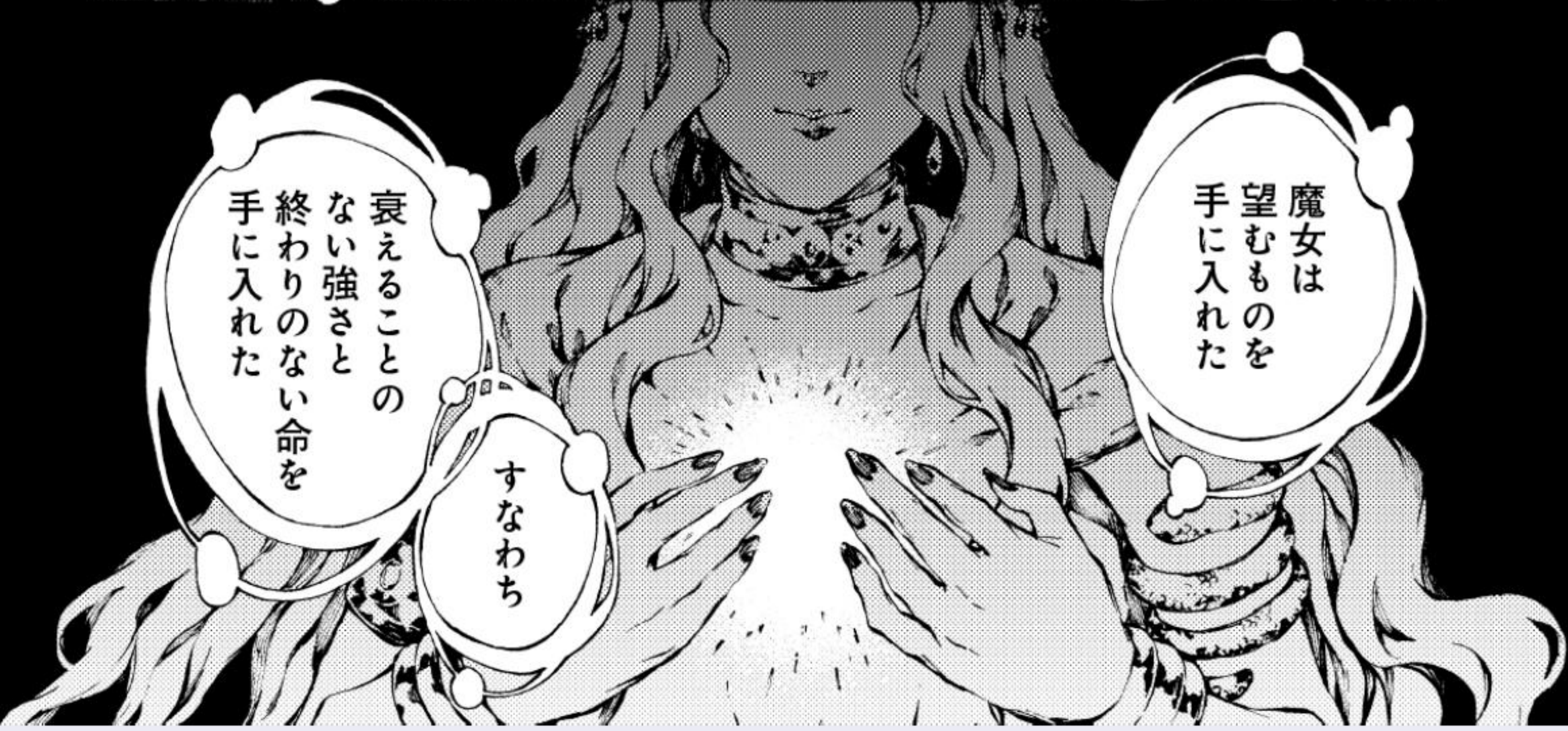
残りのリンゴは
いまや魔女にとって
恐怖となったのだ

許されぬときに
許されぬ方法で
リンゴの実を摘んで
食べた者には

そのような
報いがある

リンゴの実は
うまいが

そういう者たちは
以後ずっとそれを
忌みきらうように
なるのだ



だが

邪悪な心を
持つ者にとって

永遠の命は

ただ永遠の苦悩を
もたらすだけの
ものであり

すでにそのことを
魔女は
悟りはじめている

望むものを
手に入れたと
しても

それに
満足できるとは
かぎらないのだ

ぼく……

自分でも一個
食べそうに
なりました

アスラン

ぼく

もし
食べていたら

ぼくも――

その通りだ

わが子よ

なぜなら

魔法の果実は
つねに効き目を
あらわす

――そうでなくては
ならないからだ

しかし

自分で
勝手に果実を
摘んだ者には

幸せは
もたらされ
ない

もし

ナルニアの何者かが
命令によらず
リンゴの実を盗んで

ここにナルニアの
守りとして
植えたならば

それでもその木は
ナルニアを
守ることになるう

しかし

それは
ナルニアを
チャーンのごとき
強大かつ
残虐な帝国にして
守るのであつて

わたしが考えるような
優しく思いやりに
満ちた国にして
守るのではない

そして
わが子よ

魔女はもうひとつ
別の誘惑も
しなかったか？

はい

アスラン

家にいる母に
リンゴを
持って帰れと
言われました

よいか

そうすれば

たしかにリンゴは
母親の病を
治すことに
なったであろう

しかし
それは

あなたにも
母親にも
歓びをもたらすは
しない

いつか
かならず

あなたも母親も
そのことを
ふりかえり

むしろ
病で死んだほうが
よかったと思うときが
来るにちがいない



母さんの命を
救う希望は



もう
なくなっただ

…でも
アスランは
起こりうる未来を

…愛する人と
死別するより
もっと恐ろしい運命が
あることを
予見していたんだ—



わが子よ



それは

リンゴを
盗んだ場合に
起こりうる
べきこと

…という
意味なのだ



これから
起こるで
あろうことは
ちがう



これから
わたしがあなたに
与えるものは

歓びを
もたらすで
あろう

それは

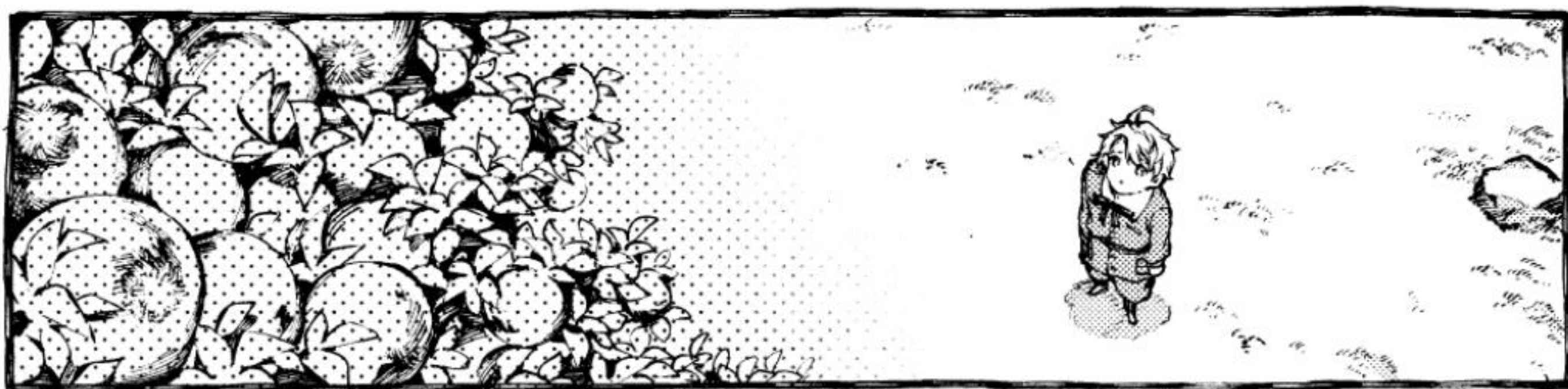
あなたの
世界においては

永遠の命を
さずけるもの
ではない

しかし

病を
治す力はある

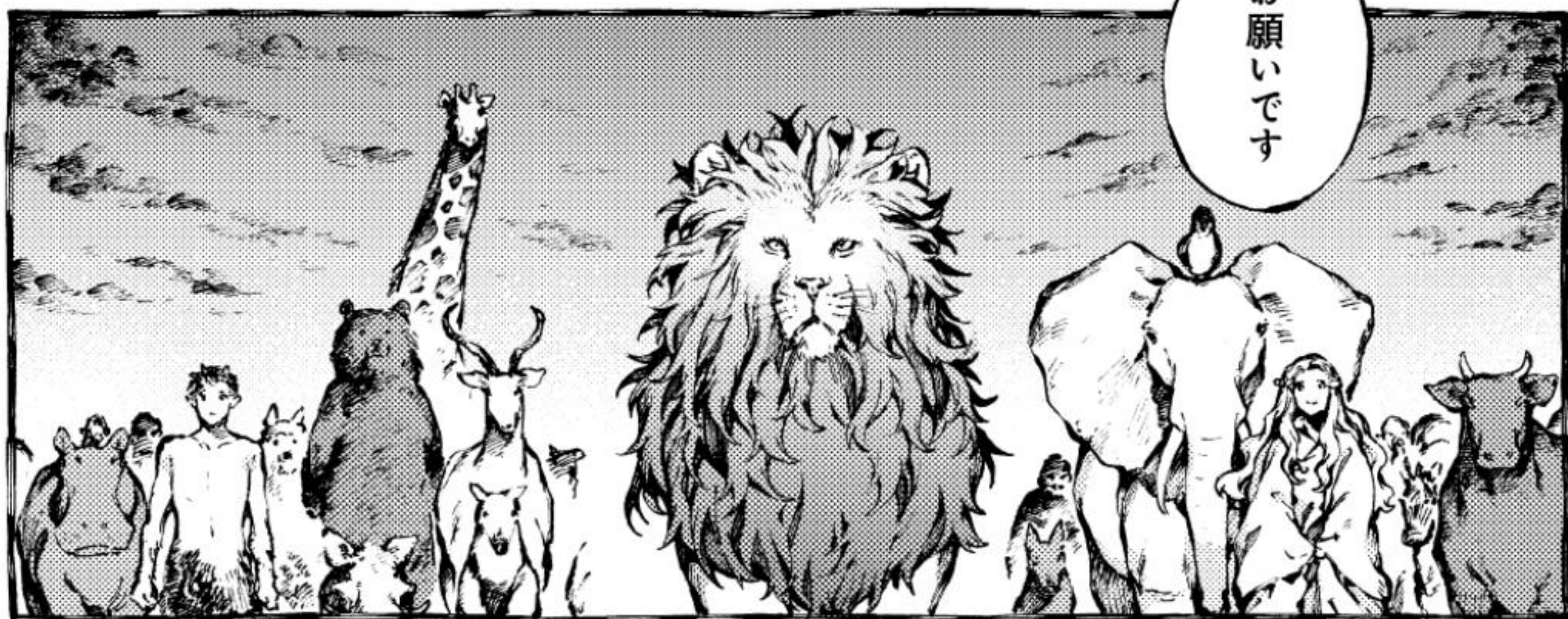








お願いです



家に帰って
いいですか？





—アスラン

ありがとう

つづく